

2015

日本古来の柄を活かしたアプリケーション展開

Japanese traditional pattern apply Products

AD 18 佐藤 愛
指導教員 小西 均

1.研究目的

西洋からの文化が定着し、日本の文化に対する尊重が薄れてきた。

日本の文化を代表する日本古来の柄を工業製品に取り入れ、また、どのように活用し今の時代に取り入れていけるかを研究する。

2.調査と分析

日本古来の柄、今では「和柄」と呼ばれているがこの和柄は平安時代に身分を表すものとして使われていた。女性文化という平安時代の特徴である、文化が到来し、柄をおしゃれとして取り入れるようになった。その後染めの技術が発達し、より複雑な柄も作れるようになった。

和柄といえば一番よく知られているのが友禅染めである。この友禅染めを使った工業製品や衣類はすでに作られている。

その他にも有名なファッションデザイナーが「和」をコンセプトにしたファッションショーを行っている。しかし女性にアンケートをとってみると、「現存する商品に馴染んでおらず、ただ柄をくっつけてむりやり和柄の商品として売り出しているように見える」という意見や、「西洋の模様のほうがカッコいい」といった厳しい意見が出た。

平安の女性文化で開花していった柄なのに、今では廃れようとしている。また、製品もどちらかというと美しいというよりもカッコいい物が多く、女性よりも男性に人気が高い。

3.コンセプトの立案

女性に好まれる和柄をテーマに考え、女性が持つ儂さや美しさといった女性自身のイメージを和柄に取り入れデザインする。

4.デザイン展開

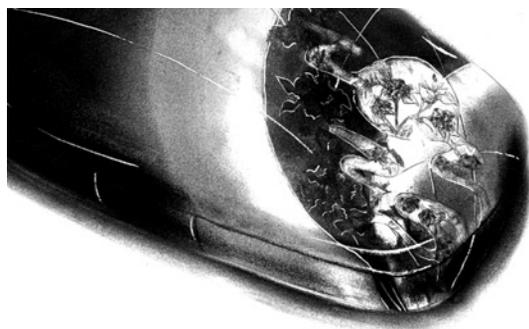
「和柄」といっても種類はたくさんあるが、今回は友禅染めをモデルに5パターン考えた。

新しく柄を考え出すときに、植物や生き物を必ずひとつは入れている。これは日本独特の自然と共存していることを意識しているためである。そしてその中からアンケートをとり、人気が高かったものを選び、実際に友禅染めで色を出し仕上げた。



次にその定着したデザインを工業製品に取り入れることを試みた。今回は「よく女性が使用するもの」を対象にし、化粧品のケースの柄に取り入れることにした。友禅染めで再現した色やイメージをできるだけ忠実に活かし、和柄のイメージにあうケースのレンダリングをいくつか作成した。

5.完成図



6.結論

古来より化粧品のケースには和柄を使用しているものが多くみられる。形は変われど用途は変わらず、デザインもそこまで似ていないわけではない。

日本古来の柄も西洋の模様に負けなくらいの魅力と美しさがあると再認識した。

今後も小物から衣類にかけて幅広いアプリケーション展開が期待できる。和柄は確かに古いイメージがあるかもしれない。けれども元々あるその柄を今日使われている道具に取り入れ、現代の文化に馴染ませていくことが出来ればまた新しい一面が見えるのではないかと考える。

7.参考文献

友禅染

<http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/nepyou/htmlsheet/bunkal3.html>